

展望鏡

ジャニーズ問題の本質

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事・相談役)

大手芸能事務所の創始者であり、長く社長
の座にあった故ジャニー喜多川の性加害問題
が世上を騒がせています。この間の報道やワ
イドショーなどで私が納得いかないのは、ほ
とんどの発言者が氏という尊称をつけ続け
ていることです。未成年の男子に対する性的虐
待を取り締まる法律が日本にないために犯罪
者として認定できないということかもしれま
せん。しかし、ジャニーズ事務所が設置した

外部の専門家による調査チームが長期にわた
る広範な加害の実態を認定し、その提言を受
けて社長に就任した東山氏が記者会見で「鬼
畜の所業」とまで断じたにもかかわらず、漫
然と尊称を付け続ける神経が理解できません。
法に触れようが触れまいが、一人の人間とし
て判断すればいい。それすらできないマスメ
ディア関係者のお粗末さが透けて見えます。
力を欠いていたのは日本社会そのものです。
最近の広告企業のコメントや、それに対す
る報道を見ていると、被害者救済と人権尊重
さえ示せば一件落着の気配もうかがえます。
しかし、いま必要なのは、今回の未曾有の
事件を好機として日本のあり方を見直すこと
です。まず芸能界は特殊なときたりや前近代

的な慣行を捨てて、健全な社会の一員として、
また、社会の公器として、つねに透明性と説
明責任が担保される開かれた組織を目指すべ
きでしょう。所属タレントとの関係はあくま
でも契約にもとづく対等の関係です。これま
で横行してきた元所属タレントの芸能活動を
妨害するような行為は犯罪であることを肝に
銘じなければなりません。

こうした不適切な習慣については番組制作
部門にも大いに責任があります。性加害を認
定した調査チームはメディアの沈黙が加害の
隠ぺいを助けたと指摘。それに先立ってこの
問題を集めたBBCも日本の報道機関がそ
の役割を果たしていないと指摘しています。
が、テレビ局においては報道局よりも社内で

力を持つ番組制作部門が視聴率獲得のために
ジャニーズの専横を許し、隠ぺいにも加担し
ていたことを見逃すわけにはいきません。
メディアは報道の不在を反省するだけでな
く、怪物を育ててしまったこれまでの経緯を
検証し、自らも含めた芸能界を健全な姿に変
えていく責任があります。事件発覚後に多く
のメディアが社としてのコメントを発表しま
したが、こうした責任について明確に発言し
たのは、朝日新聞の社説とNHKだけでした。
NHKの検証番組では番組制作の現場がジャ
ニーズに支配されていた状況の一端が捉えら
れていました。民放各局も反省を口にするだ
けでなく、自分の足元で何が行われていたか
を自ら検証すべきです。